



るうてる



2015年
6月
No.810

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <http://www.jelc.or.jp>

■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 安井宣生 koho06@jelc.or.jp

■印刷 ■ 精文堂印刷株式会社

■定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)

■振替口座 ■ 00190-7-71734

説教「主からの一歩、そして主に従う一歩」

日本福音ルーテルシオン教会牧師 水原一郎

イエスは、再び湖のほとりに出て行かれた。群衆が皆そばに集まって来たので、イエスは教えられた。そして通りがかりに、アルファイの子レビが収税所に座っているのを見かけて、「わたしに従いなさい」と言われた。彼は立ち上がってイエスに従った。イエスがレビの家で食事の席に着いておられたときのことである。多くの徴税人や罪人もイエスや弟子たちと席していた。実に大勢の人がいて、イエスに従っていたのである。ファリサイ派の律法学者は、イエスが罪人や徴税人と一緒に食事をされるのを見て、弟子たちに、「どうして彼は徴税人や罪人と一緒に食事をするのかと言った。イエスはこれを見て聞いて言われた。」「医者を必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」「マルコによる福音書2章13〜17節」

板橋教会出身の私が、山口県と島根県にまたがるシオン教会に赴任し3年目の春となります。この原稿は、山口県の徳山礼拝所、20人程の礼拝出席の教会で書いています。現在、朝9時です。あと1時間で島根県の益田礼拝所に向かいます。その距離片道100キロ。中国山脈の横断です。今の時は、大変に素晴らしい時期です。「目に青葉、山ホトトギス、初鰯」の江戸の俳句は確かだと思いません。白雲青空の下、葉桜や山藤、山ツツジが映えます。益田教会では、3、4人での礼拝を守り、確か

な喜びを抱きます。益田の次は、徳山との中間地、島根県吉賀町六日市です。こちら5、6人ながらも豊かな礼拝です。帰りは22時過ぎです。木曜の走行距離は210キロ。高速道路でなく、峠道を行く往還です。冬季は、路面凍結やシャーベット状の道路を行くこともあります。帰路、ダム湖の傍を通る時には一年中、セントラインも見えない濃霧に困ります。しかし無事に帰り着くと、「今日も僕は、無事故、無違反という意味だけの安全運転を心掛けた」という感想を抱き、そして「守られ、導かれた」と思わされました。

わされま



冒頭の聖書は、徴税人レビの物語です。レビは「収税所に座っている」

と記されています。収税所という場所、制度は現在の税務署の役割がそのまま当てはまるということではありません。市民からの税金徴収と、上級官庁への献納は、役割としては今日と確かに同じです。しかし「税金徴収」の際に収税人たちは自分の利得分を上乗せして多く集金していたといきお、厳しい視線を集める職業ということになりました。仕事として腹を括る、つまり「自分の仕事だからしょうがない」と諦めていたでしょう。だからといって、人々からの厳しい視線は、経験を重ねてもこたえるものなのです。針のむしろに坐すような心持ちで仕事の合間の休息を取っていたのでしょうか。それがレビでした。

まに従うものとなるので、イエスさまの言葉の力強さと共に、レビの鮮やかな転身が印象に残る聖書箇所です。レビの転身の出来事に、私自身思いを傾け、その心境に至った時期もありました。レビは、人々から厳しい視線を集める仕事を捨て、神さまに任せ、その働きをなす仕事に至った。レビがイエスさまの世界に入った。言い方を換えれば、俗なる者が聖なる空間へと至ったと、かつてのように聖書を讀み、今も折にふれてそんなことを思います。



しかし、改めて聖書を讀むと、「俗から聖」ではなく、むしろその反対かと思わされます。つまり「聖から俗へ」なのです。イエスさまは、聖書全体を通して、徴税人など、当時としては白眼視された方々と交流を深められました。とやかく言う人々は登場しますが、イエスさまはその白眼視をものと

もされませんし、時にはそれと戦います。ここでは、イエスさまは、自ら、レビの世界に入られたのです。結果を見れば、レビは弟子となり、収税所の仕事とは距離を置いたのでしょう。しかしその契機は、イエスさまがレビに近づき、その生活の中に入ったが故に、レビの生き方が変化したということとです。

レビは、確かに頑張りました。今までの生活を脇に置いてイエスさまに従うという決断は、並大抵のことではありませぬ。けれど、そのような生き方を決断させたのは、他でもないイエスさまの言葉があるが故なのです。「私は頑張りついで、しかし主はそれを越え、計り知れない所での恵みを増し加えてくださる」のです。そして、今までのレビの生き方も無駄ではない、ということも覚えてたいのです。今までの生活、生き方があったがために、レビにはイエスさまの言葉が響いたのである。「あなたの今までの人生に、無駄なものは何一つもない。イエスさまはそれをも用いてくださる」のです。

宗改五〇〇年に向けて
ルターの意味を
改めて考える(38)
ルター研究所長 鈴木 浩

どのようにしたら、人間は神を知ることができるのだろうか？
ルターはここでも、無量聖書によつてのみ」と言うのだが、実はもつとずつと刺激的な言い方をした。「神はイエス・キリストの十字架の苦難と死以外の場では、決して認識されない」。これが、1518年に修道会の総会で、ルターが司会した討論の際の発言である。
ルターは十字架の上で「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですかと叫んで死んだイエスの

どのようにしたら、人間は神を知ることができるのだろうか？
ルターはここでも、無量聖書によつてのみ」と言うのだが、実はもつとずつと刺激的な言い方をした。「神はイエス・キリストの十字架の苦難と死以外の場では、決して認識されない」。これが、1518年に修道会の総会で、ルターが司会した討論の際の発言である。
ルターは十字架の上で「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですかと叫んで死んだイエスの

LCM 会議開催



5/12-14に海外のパートナー教会(アメリカ、ドイツ、フィンランド)との宣教会議であるLCM会議が東京・ルーテル市ヶ谷センターと東京教会にて開催されました。「宗教改革500へ～これからの宣教～」とのテーマで、宮本新牧師の講演、また各国からのプレゼンテーションから学び、協議を行いました。次号にて報告をお届けします。

第17回 ルーテル子どもキャンプ
アムステルダム・アイランド
トンガ王国へようこそ!
2015年 8月6～8日 (木～土)
場所 ルーテル学院大学 / 日本ルーテル神学校
キャンプ員 高田直樹(三城)
チャプレン 小泉龍樹(千葉)
連絡先 「私たちは神の中に生き、動息、存在する」

詳しくは→ <http://bit.ly/1c1zakj>



議長室から

古本の購入業者へ宅配便で送ったこともありましたが、古本の価値が驚くほど低いことを改めて認識することになりました。当たり前ですが、古本の買取価格は、その本にどれほど需要があるか

連の本はキリスト教専門店に並べられているというところが定番ですが、最近の傾向として目につくことは、一般書店にキリスト教や神学的なことを正面から論じている本がよく並んでいることです。しか

が見えなくなってしまう、むしろ教会の外の人の方が、教会がよく見えているということがあります。これと同じで、聖書の読み方、教会の長所と弱点について、今期待されている教会の働きについてなど、

ん。聖書を読むことをおろそかにせず、祈りを欠かさないことが重要です。それに加えて、様々な真摯な声に耳を傾け、アンテナを張るのです。教会は聖霊降臨後の暦

信仰の栄養を蓄えるとき

総会議長 立山忠浩

4月の引っ越しに伴い、ため込んでいた本の整理をしました。本棚の奥にしまい込んでいた本を見つければ、「こんなところにあったのか」と宝物を探し当てたような気分になったり、同じ本があることに気づき落胆したりの連続でした。

で決まるようです。「神学書が売れない」というキリスト教出版業界や販売店の嘆きを耳にすることがありますが、古書にいたってはなおさらのことでしょう。神学書やキリスト教関連

も著者が神学者や牧師ではありません。中にはキリスト者ではない著者もいるのです。しかし実際に手にして読んでみると、教えられることが多いのです。教会の中にとっぷり浸

様々な面で刺激的な視点を提供してくれているように思います。もちろん私たちは基本的な立ち位置を見失ってはいけません。礼拝を大切に、牧師の説教をきちんと聞かなければなりません。

教会は聖霊降臨後の暦に入りました。昨年末のクリスマスを経て復活節が終わり、主イエスのご生涯をたどる暦が終わりました。これからは信仰的な成長を目指す季節を過ごします。植物が根元からだけでなく葉からも栄養を取り入れるように、私たちも様々なアンテナを張り、信仰の栄養を蓄えてまいりましょう。

「となりびと」になろうと一歩を踏み出す時は、突き動かされるような「断腸の思い」が原動力になるのでしょうか。しかし、継続的に共に歩もうと信頼関係を築いていく時に大切なことは、意外とシンプルなのかもしれません。2011年8月、私はルーテル教会救援「となりびと」を介し、ボラン



久保彩奈



わかめボランティア作業

新しい「旧」の家竣工

福祉村委員会

内藤文子

4月6日、東海教区の福祉村にて、新しい「旧」の家の竣工式が行われました。昨年の10月7日に起工式が行われ、半年を

後援会、そしてこれまで子どもたちをしつかり支えてくださった暖かい篤志の方々も。「旧」の家が、いかに地域や教会の多くの方々に支えられ、施設長・職員が交わって来たかを、感激をもって知ることができました。

施設長の松田正幸さんは「7年前に完成したまきばの家(児童養護施設)と旧」の家を比べると老朽化が子どもたちに申し訳なく、改築したいと思っただけです」と話しています。具体的な話が始まったのは、2年前。農地から宅地への変更、広大な敷地ゆえの接道条件、建築資材の高騰、ライフラインの確保などなど困難は少なくありませんでした

約50年、農学校、フリースクール、そして自立援助ホームへと形を変えつつ、数多くの青年たちの暮らしを支えてきました。これまでの「旧」の家の家」の風情のある木造2階建てには、思い出がたくさんあります。限られた職員が、朝・昼・晩のご飯を作っていたとき、東海教区の女性会が、時々「食事」作りのボランティアをしました。子どもたちはとても喜んでくれて、良き交わりとなりました。

建物に、子どもたちとスタッフは、お礼の手紙を書いています。「長い間、雨風に耐え、私たちの生活を支えてくれた。壁に穴を開けてごめんね。ささいな奇麗なカレンダーやポスターでつぎはぎでしたのだけれど、私たちの思い・怒り・孤独・後

悔をいつも静かに受け止めてくれました。本当にありがとうございます。」



「旧」の家の歴史は

この「旧」の家の

この「旧」の家の



ティアとして石巻市十三浜を訪ねました。壊滅的な被害を受けた地域は多くありますが、自分が出たことなら、子どもたちと一緒に訪れたいと感じました。ボランティアに出来ることはわずかでありますが、それでも出会って、つながることで次の新しい可能性が見えてくると私は信じています。

勤務する聖望学園(埼玉県)の高校の生徒たちと十三浜を訪れたのは2012年。わかめ生産者の西條きく子さんにお会いし、ボランティアをしようという話になりました。つながる方法はいろいろあります。物販支援をするというかたちで現在もつながっています。夏にはわかめ漁に使用するロープにわかめの種をつける作業、春にはわかめの芯抜き作業のボランティアを担当しています。いつも先生、またきく子さんに会いたい」と生徒

礼拝式文の改訂



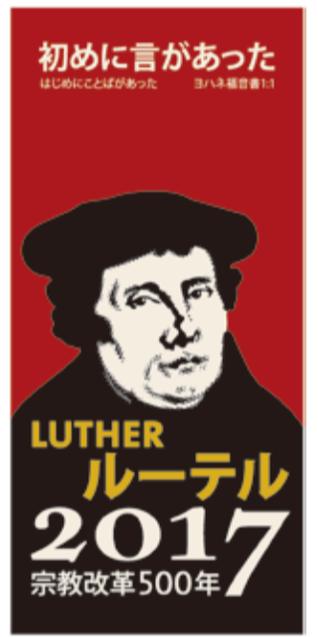
⑭ 現行式文と改訂式文案の式順

式文委員 中島康文

式文改訂の作業を開始する際、現行式文の使用状況についてアンケートを行ったのが2007年末でした。その後、2012年全国総会の折に一部改訂した式文を開会礼拝に用い、2013年全国教師会では改訂式文をテーマに協議していただきました。更に2014年全国総会では式文曲の一部案を試演しました。また協議内容に関する概要は、常議員会にて報告してまいりましたし、各地で改訂式文についての説明が始まっています。

現行式文	改訂式文案 (2014年全国総会)
開会の部 初めの歌 み名による祝福 罪の告白の勧め 罪の告白 赦しの祈願祝福 キリエ グロリア	「招き」 (洗礼の想起) 招きのことば 告白 (黙祷) 赦し つどいの歌 キリエ グロリア 集いの祈り
みことばの部 祝福の挨拶 特別の祈り 第一の日課 第二の日課 (ハレルヤ唱 又は詠唱 (詩編唱も可) 福音の朗読 みことばの歌 説教 感謝の歌 信仰の告白	「みことば」 第一の朗読 その日の詩編 (詩編の後に栄唱) 第二の朗読 (ハレルヤ又は詠歌) 福音の朗読 説教 みことばの歌 信仰告白 とりなしの祈り 平和の挨拶
奉獻の部 祝福の挨拶 奉獻と奉獻唱	「聖餐」 聖餐の歌 序詞・その日の序詞 サンクツウス 設定 主の祈り アグヌス デイ 聖餐への招きと聖餐 聖餐の感謝 サンクディミティス
派遣の部 祝福の挨拶 ヌンクディミティス 教会の祈り 祝福 終わりの歌	「派遣」 派遣の祈り 感謝のささげもの 派遣の歌 祝福 派遣の言葉

礼拝全体を検討し見直すために設置された式文委員会の働き「式文改訂」について、日本ルーテル教団と共に、その解説をお届けします。



連載 マルティン・ルター、人生の時の時(5)

江口再起

ヴォルムス国会(1521年、38歳)改革運動の前進(「われ、ここに立つ」)

「95ヶ条」以後、ルターと(カトリック)教会との間に様々な論争(「ハイデルベルク討論」、「ライプツィヒ討論」など)がありました。結局ルターは「破門」されました。しかし、改革運動は前進する。改革陣営は独自の道を歩む。そして、とどのつまりは教会分裂。カトリック教会とは別の、プロテスタント教会が誕生しました。

こうした事態を最も鮮やかに示しているのが、1521年のヴォルムス国会でのルターの発言で

す。ルターは神聖ローマ帝国皇帝カール5世の前呼び出され、自説の取り消しを求められましたが、しかしそれは拒否、そしてこう叫びました。「われ、ここに立つ」。この言葉は、ルターによって切り開かれた近代的個人主義の曙として有名ですが、しかしそれ以上の意味を内包しています。「われ、ここに立つ」の「ここ」とはどこか。カール5世の前とこのことか。それはあるが、それ以上に、この「ここ」とは実に「神の前」ということです。人間とは、「人の前」で生きていくのみならず、実に「神の前」に生きていく存在なのです。

さて、その後のプロテスタント陣営の歩みですが、その内部でも、今日から考えていささか細かな論争もいろいろありましたが、「聖餐論争」など。そして、またまた分裂。その結果、同じプロテスタント教会でも、いろいろな教派があるのです。しかし、それはともあれ、プロテスタント教会の主張の一応のまとめとして、1530年、「アウグスブルク信仰告白」が発表されました。そして、その歩みの中で、ルターは数々の著作を残しました(「キリスト者の自由」、「大教理問答書」、「奴隸意志論」など)。

ところで、こうした改

第22回春の全国ティーンズ キャンプを終えて

小澤素紀

3月26〜28日千葉市少年自然の家にて第22回春の全国ティーンズキャンプが開催されました。テーマは「…おかえり、いつてらっしゃい」。礼拝について学ぶプログラムに、81名のティーンズと32名のスタッフが参加しました。全国の教会の皆様との祈りとお支えにより、無事に終えることができましたことを心から

感謝いたします。ティーンズ世代の子らが礼拝について疑問を出し、考え、知る時となりました。後ほど発送されるキャンプ思い出集に感想文をすべし掲載します。どうぞお楽しみに!

(参加者の感想文と証の一部)

「私たちはイエス様に愛され、祝福され、支えられていた。あたり前のことかもしれないが、再確認できて良かった」「礼拝に行くことがだんだんと減ってきていた中で、こ

のようなことを学んで改めて礼拝に参加することの大切さを実感しました。「いつもは、何気なくやっている礼拝の歌や言葉、聖句に、ひとつひとつ意味があって、それぞれがとても大切だ」ということがわかりました。「私は今まで礼拝を流れるように聞いていただけでしたが、礼拝が…おかえり、いつてらっしゃい…をやる場だと知り、見方が変わりました。自分にはいつも迎えてくれる場所、帰る場所があるんだと思うと安心できるし、教会を出ていくときも神さまが背中を押してくださって、いつもそばにいてくださると分かって、とても心強いと思えました」「私は幼い頃からずっと教会へ通ってきまして、でも、何のために礼拝に出ているのか、礼拝とは何か、ひとつひとつのことを意識したことがあまりありませんでした。でも今回の春キャンプを通して、自分は神様に招かれていること、礼拝に出ることの大切さを実感することができました。私はまだ洗礼を受けてない



第3回常務委員会報告

事務局局長

白川道生

2月20日から22日にかけて第26回総会期の第3回常務委員会が開催された。すでに議事録は送付されているので、本稿では時間を割いた協議事項の論点と対応を組み合わせで記したい。

まず、2014年度収支決算の承認があった。教勢(集計表は各教会に配布済)は、会員数が2万1988人に増加(受洗者数は昨年と同じ15

0人)した。反面、基礎収入では1500万円弱の減少となった全体教会の姿が見えた。

財務課題として経営改善に取り組み収益事業には好転が見られた。2008年に発生した、いわゆる「リーマンショック」以降、大幅な減収が生じていたが、本年度の経常利益は2008年以前の数字に回復した。大阪会館、広島会館の稼働率向上が要因となった。

他に「礼拝式文の改訂」、「神学教育に関する協約」、「ブラジル伝道」、「2015年度人事」へ協議の時間を割いた。

礼拝式文の改訂では、本改訂作業が総会決議

によるもの確認を鑑み、常務委員会の取り組みを再検討した流れに沿って、各教会に説明会の実施を依頼した。結果、本年中に、式文改訂の作業を担う委員がすべての教会を訪問し、説明の機会を設ける日程が決まった。

神学教育に関しては、2017年に現行の神学校支援方式満了を迎えることを念頭に、その後の神学教育の在り方、わけても支援の規模や方法等について等、当事者協議を重ねている。JELC(日本福音ルーテル教会)のスケジュールとしては2016年全国総会への提案を予定してゆく。

JELCの海外宣教では、伝道開始から50年を迎えるIECLB(ブラジル・ルーテル告白福音教会)との協議が望まれていた。本件はJELCとIECLB間の宣教協力の歴史の経緯を保ちつつ、在り方を定める課題との認識が共有され、現地の現状も踏まえながら、JELCの対応方針につき、協議が行われた。5月からはインターネット環境を通じた現地との会議も実施している。

念すべき旅行への参加者を募っているのをご覧いただきたい。最後に2015年度の人事について、すでに本紙4月号に記したが(5名の定年引退、新任4名、ほか人事異動情報)、宣教師及び出向教師含め、103名の教師で宣教師体制を組む人事となった。宣教師、牧会委嘱を除く現任教師に限るならば、国内教会への派遣教師数は現職79名となった。

『聖書日課』ホームページリニューアル

ルーテル『聖書日課』を読む会(近畿福音ルーテル教会引退教師) 代表 須田博之

今年4月1日から、これまで10年以上無料で提供してきました『聖書日課』のホームページをリニューアルいたしました。

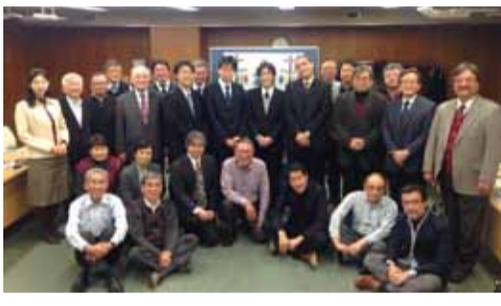
た音声もお楽しみ頂けるようにコンテンツを充実させ、年入費を頂いて運営する形に衣替えをいたしました。年会費は1000円となっております。

『聖書日課』は、聖文会が発行できなくなった後、当時、京都教会の牧師であった小泉潤牧師の呼びかけで、関西に拠点を置くルーテル諸派から委員が集まり、「ルーテル『聖書日課』を読む会」として会員から会費を集め、これに対して会報をお送りする形で運営されてきました。現在では4000名を超える方々が会員となっており、さつています。創刊当時から点字会報、テープ会報も作成してきましたが、これについても会費を頂いてきました。このたびは、ホームページや携帯電話などへのメルマガをご利用して下さっている方からも会費を頂き、この運営にご協力を頂くこととなりました。

すでに100名近い方々が登録をして、『聖書日課』の働きを支えて下さっています。ホームページの会員登録のボタンから登録ができるようになっています。

書物版についても案内をし、個人でも申し込み可能となりました。是非、リニューアルされたホームページをご利用ください。
<http://seishonikka.org/>

①申込締切 8月25日
②申込先 FAX(事務局) 03-3260-8641
③追加オプション代金8万円
各教会へ配布されている案内パンフレット、ならびにJELCウェブサイトに記載の情報は正確です。
広報室



表記の会議が4月7日から9日まで、東京のルーテル市ヶ谷センターと東京ルーテルセンター教会(日本ルーテル教団)を会場に開催されました。今回の会議は2013年にLWF(ルーテル世界連盟)理事会で採択された「ジェンダー・ジャスティス・ポリシー(ジェンダー公正基本方針)」の周知と推進の働きを担うリーダー研修を目的とするものでした。WICAS(教会と社会における女性部)担当主事のイレイン・ノンフェルト牧師を講師に迎え、韓国ルーテル教会から5名(うち男性牧師1名)、日本キリスト教団から5名(うち男性牧師1名)、日本福音ルーテル教会から6名の女性たちが参加しました。



30数名の参加者がイレインWICAS主事の、基本方針についての深くてわかりやすい説明に耳を傾け、熱心な質疑応答がくりひろげられました。LWFはジェンダー(社会規範や慣習によってつくられた性差)に起因する諸問題(性差別や女性への暴力等)の解決を神の正義として達成すべきこととして2017年の宗教改革500年に向けた重要な取り組みの一つとして、ジェンダー公正基本方針を世界の加盟教会に示しました。男性優位の考え方が共通して色濃く残る北東アジア地域にある教会は、社会に率先して男女の平等をなくし、宣教や奉仕のわざを男性と協働し

「そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分のものもなく、男も女もありません。あなた方は皆キリスト・イエスにおいて一つだからです。」(ガラテヤ3:28)

住所変更のお知らせ (あいうえお順)

- 鐘ヶ江昭洋牧師
〒357-0041 埼玉県飯能市美杉台 7-5-10 電話 042-974-7328
- 小嶋三義牧師
〒179-0073 東京都練馬区田柄 2-34-13-108
部屋番号のみの変更です
- 佐々木赫子牧師
〒790-0821 愛媛県松山市木屋町 4-3-2 日本福音ルーテル松山教会
電話 089-904-8799
- 鷺見達也牧師
〒270-2261 千葉県松戸市常盤平 3-3-103 電話 047-384-4689
- 藤井邦昭牧師
〒731-0221 広島県広島市安佐北区可部 6-9-32 Ⅲ-101
電話 090-2878-7928
- 松木傑牧師
〒735-0001 広島県安芸郡府中町桜ヶ丘 14-20 電話 082-236-8630
- 吉谷正典牧師
〒867-0011 熊本県水俣市陣内 2-3-6 電話 090-3013-5565